

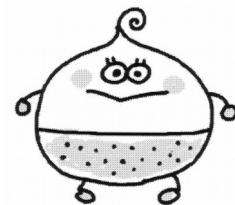
HDM推進会（第46回）／ごみゼロネット推進会（第68回）議事録

開催日： 2014年（H26年）1月8日（水）10:00～11:55

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、平林、大橋、杉本、川村、山本、林、桐生（作成）

議題：



1. 重要事項の連絡（加藤氏）

- 12/25に小金井市廃棄物減量等推進審議会の第三回会合が行われた。日野市議会にて可燃ごみ施設の基本計画の補正予算が可決されたため、共同処理のパートナー国分寺市と小金井市も「一般廃棄物処理基本計画」の一部を変更するの必要を生じたためである。小金井市のH18年3月策定の基本計画の内、①二枚橋焼却場の廃止、②新たな可燃ごみ共同処理体制への移行は変更なし。③将来の可燃ごみ焼却施設の整備を「日野市及び国分寺市との三市による可燃ごみ処理を推進し、新焼却処理施設の平成31年度中の稼働を目指し、整備事業を推進します」となる。委員である加藤氏より「小金井市ごみ処理施設は二枚橋跡地との決定事項との整合性」等の付帯意見をつけるよう要求したが、実現しなかった。議事録にも都合の悪い事項は一切載せられていない。
- 前回の議事録に添付した稲葉市長宛「他市からのごみ受け入れ広域化に反対する会」等が2月の小金井市市議会において日野市民団体から意見陳述される。（日時が決定したら、加藤氏より我々に連絡する）
- 家庭系可燃ごみの減量目標は5%であるが、4～11月実績は0.07%の微増となり、これまで一貫して減量してきた傾向に始めて変化が現れた。これからの減量は厳しくなる。

2. 現状の反省と打開に向けた討議

我々の活動は今、一種の手詰まり状態にある。その構図は次の通り

- (1) 市長及びその意を体する市職員は「生ごみの分別収集」のような有効な手段をも一切受け付けない。2010/3/16のごみ特委員会及び3/27の本会議で満場一致で採決された「生ごみの減容処理HDMシステム実証試験の陳情」に基づき、我々がごみ対課と「HDM導入検討会」を始めて足かけ4年になるが、何度「分別収集」を持ち出しても、「糠に釘」である。一方、国分寺市は既に分別収集を開始した。
- (2) 日野市との事務レベルでの同意事項も、一切、市民には知らされていない。
- (3) 日野市との交渉の妨げになることを恐れて、全ての議員がごみ問題での発言を自ら封じている。市民の代表であるはずの議員がこれでは、市民はごみ問題を知りようがない。
- (4) 報道メディアも市長や市議会に対しての遠慮が目立つ。真相に迫る報道が見られない。
- (5) 共同処理に反対する日野市民グループの稲葉市長や市議会議長宛の抗議文をパンフレットにして市民に知って貰うことも考えたが、我々が伝えたいこととは路線が異なっており、断念した。（山本氏）

3. 打開の途はいずこにあるか

- 「議員たちの発言から、ごみ問題に関する各議員の評価を行って公表してはどうか」VS「全員が見ざる、聞かざる、喋らざるなので、評価に差が付かない。全員バツである」
- 「市長への手紙」でも最多のごみ問題で、9人中7人が「ごみ処理は自分の市でやるべき」と述べている。
- 我々が市民に働きかける際も、「生ごみは自分の市で処理する」という覚悟を明確にする必要がある。
- 三市で「ごみ処理市民協議会」を結成すると唱っており、ここに突破口があるかもしれない。

以上

HDM導入検討委員会 1月17日（金）10:00～本町暫定庁舎第2会議室

次回打合せ 2月12日（水）10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ